

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號六第 卷一十第

論 說

地租と地方團體との關係……………法學博士 神戸 正雄

植民地の財政政策に就きて(三)……………法學博士 山本美越乃

地代課税主義土地改良論者……………法學博士 河田 嗣郎

生計調査を論ず……………法學士 汐見 三郎

價值論上のリカアドとマルクス(三完)……………經濟學士 堀 經夫

時事問題

目下の卸賣相場と小賣相場……………法學博士 戸田 海市

雜 錄

英國現代の經濟學者と社會主義……………經濟學士 三田村 一郎

經濟地理學研究に對するグルーベル博士の……………經濟學士 黒 正 巖

竹越氏の「日本經濟史」に就て……………法學士 本庄榮治郎

石澤氏の「本邦銀行發達史」を讀む……………法學士 大森 研造

附錄……………本誌第十一卷總目錄……………

經濟地理學研究に對する グルーベル博士の見解

黒 正 巖

經濟地理學の研究は漸く三十年來のことに屬

しその研究の對象や範圍などについても諸説未だ歸一して居ない。併し斯學に志す人々は先づこの重大問題を解決して然る後にその歩武を進めて行くべきだと信ずる。私は之が研究の參考としてグルーベル博士の見解¹⁾を左に譯出して見よう。

最近十年の間に經濟地理學は地理學の幹から發達して有力且つ重要な枝となつた。經濟地理學は人々の生計に對し、自然的事情が如何なる價値を有するかを考察し、自然現象と國民の物質的勞働との關係を探求し、地の利とその住民の經濟的威力の表現との根本的關係を闡明するものである。約言すれば經濟地理學は一地域の自然的恵與 (natürliche Ausstattung) と人々の各方面の經濟生活との相關作用を論ずるものである。²⁾ 從て經濟地理學の研究には先づ貨物の産出及び移動に對する一地域の一般的配置狀態を考へ、次に人の側より見て、この地理的配置狀態が生産や商業や交通に對して有する價値并に之が人口の分布、聚落の狀態又は國民の富に

1) Weil. Prof. Dr. Christian Gruber:

wirtschaftliche Erdkunde II Aufl. 1911. Vorwort.

2) W. Götz 氏は既に一八八二年に之を論じた。Die Aufgabe der wirtschaftlichen Geographie. (Zeitschrift der Gesellschaft für Erdkunde zu Berlin XVII Band) 參照

關連して生ずる結果の如何を觀察せねばならぬ
 即ち第一は經濟の自然的要素に關し、第二は經濟を營む人に關して居る。併しこの二者は次の様な相互依屬の關係に立つて居ると云はねばならぬ、即ち人類の勞作が自然に加へられて初めてその結果は明白且つ自由に現はれるものである、又一面に於て仲々力強い自然の壓迫があり、他面に於て人類はその物質的活動をなす場所に適應する力を有し、然かもこの二者は共にその機能を充分に發揮するものである。

凡べて經濟地理學研究に於ては解釋的推論的
 要點が、純然たる記述的數字統計的要點よりも遙かに重要な地位を占めて居る。Remuneration-
 nosere causas 即ち人々の經濟生活の自然的根本原因の闡明は、斯學の研究にとつて最も高調すべき點である。故に單純なる事實は、事實をれ自身としては尙ほ有意義であるかも知れぬが、只之をモザイクの美しい石の様に、何等の密接な關係もなく一つ一つ並べたり、或は殊更に數額を組合はせて出來た數字の配列は、之を大

聲に讀み上げて見ても、假ひ他人に迷惑をかけないにしろ、經濟地理學の研究上何等の價値はない。故に吾人は更に進で個々の地域の相貌から考へて、ゲーテの所謂 *Eins durchs andere* *Sicht und strebt* といふ意味深い語が如何に行はれて居るか、個々の地域に於ける生産や商業や交通に對して自然の與へた培養土は如何なる状態にあるか、又之が人の手によつて如何に影響され且つ最高度に利用せられ得るかを推論せねばならぬ。

右に述べたことが出來るとすれば、斯學は、人々の國民經濟的研究に貢獻し、又彼等の勞働生活のため誠に好都合となるであらう。古來から實際的の地理の知識は必要であるとせられて居たが、今日ではこの知識は一般的教育に必要缺ぐべからざる分科となつた。經濟學者や工業家は勿論、行政官も商人も、技術家も地主も、吾々の經濟生活の自然的原理や、その生活の發展に對する條件を、自國に於てのみならず、主要なる諸外國につきて知ることば、今や最も肝

要なことである。今後の經濟社會に於て斯學は華々しい役割を演ずるであらう。蓋し經濟地理學は一國民、一國家の勢力の所在が、果して何所にあるかを闡明するからである。殊に斯學に由れば、實情を基礎として外國を批判することが出來、之と同時に自國を正當の方向に導き、かの眞理の敵であり且つ又人々の各方面に於ける平和な進歩發展の敵である所の偏狹なる愛國的自負心の排除に與て力がある。